

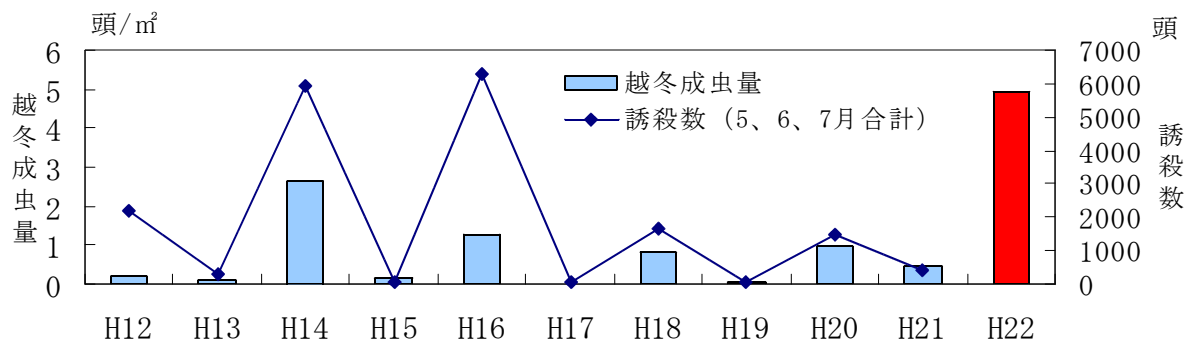
# 平成22年度病害虫発生予察注意報第1号

平成22年4月16日  
愛知県

作物名：ウメ、モモ  
病害虫名：チャバネアオカメムシ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 今年のチャバネアオカメムシの越冬成虫量（平成22年2月調査）は1平方メートル当たり4.91頭（過去平均0.67頭、前年0.44頭）と過去14年間で最も多く、今までの最大値2.67頭（平成14年）の1.8倍であった（下図）。
- (2) 常緑広葉樹林における越冬成虫量調査地点（県内15地点）のうち、12地点（過去平均6.9地点、前年10地点）でチャバネアオカメムシの越冬成虫が確認された。
- (3) 前年のスギ・ヒノキ科花粉飛散数は、過去10年で2番目に多かったため、5～7月までのチャバネアオカメムシ越冬世代成虫の予察灯における誘殺数が多くなることが予想される。
- (4) 日中の気温が20℃を上回るようになり、チャバネアオカメムシが活動を開始し、山つきのウメ園などで果実被害が出始めるのは、例年は4月下旬からである。



チャバネアオカメムシの越冬成虫量と予察灯における誘殺数（豊橋・新城5～7月）の関係

## 4 防除対策

- (1) カメムシ類は、20℃以上で風が弱い夜に行動が活発になり、長距離の移動もするようになる。そのため、平坦部の果樹園に突然飛来したり、山つきの園で飛来が急増したりするので、園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認する。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来して、集中して加害する傾向がある。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (3) 越冬成虫量が多い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、残効の長いネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤を散布する。ただし、合成ピレスロイド剤は、カイガラムシの天敵に対して長期間影響を及ぼすため、カイガラムシ類の発生がある場合は、合成ピレスロイド剤の散布を控える。
- (4) チャバネアオカメムシに果実を吸汁されると、小ウメや幼果期のモモは落果し、大粒種のウメや幼果期以降のモモでは、吸汁痕が残り品質が低下する。そのため、モモ果実に袋がけをする場合は、なるべく早く行う。
- (5) 農薬の散布に当たっては、他の農作物や人畜に害を及ぼさないよう飛散防止に努め

る。

(6) 農薬はラベル表示事項を守り使用する。

カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	系統	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
ウメ	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫3日前まで	3回以内
	スカウトフロアブル	ピレ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
モモ	テルスター水和剤	ピレ	1000倍	収穫14日前まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内

注) 系統の「ネオ」はネオニコチノイド剤、「ピレ」は合成ピレスロイド剤であることを示す。

## 5 その他

チャバネアオカメムシの越冬成虫は7月下旬頃まで生存し、ブドウ、ナシ、カキの果実にも大量に飛来することが予想されるため、今後、注意が必要である。

## 6 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ  
電話：0561-62-0085（内線471）